

桐生悠々 ひょうふ 評論家。明治八年五月、千葉県川崎生れ、昭和十六年九月十日歿（一八七三—一九四一）。本名政次。別號悠々庵、悠々生、愈々庵

生、桐生悠々庵、桐生愈々庵、青龍刀等。明治二十九年東京帝國大學法科大學政治學科卒。在學中小說を發表。二十五年『下野新聞』、四十

二年『信濃毎日新聞』、大正二年『新變知』各主筆歷任。昭和二年信

毎に復歸も、八年の社説「關東防護大演習を曉る」が筆禍となつ退社。

翌年名古屋へ個人誌『他山石』發刊。翌年名古屋へ個人誌『他山石』發刊。

著譯書『通俗法學汎論』（本名、明治二十二年十一月三十日博文館

「通俗百科全書」）、『錢屋五兵

衛』（明治二十一年四月三十日博文

文館「少年讀本」）、『閻龍』（本

名、明治二十九年十一月三十日博文

館「世界歷史譚」）、『橋本

左内』（明治二十四年二月二十四日

博文館「少年讀本」）、『タキシヅヤリーリエ世策』（本名、豊田多賀

雄共譯纂、明治二十三年八月十四日博文館）、ミケル・オーレル著

『婦人國』（譯、明治四十九年十月、一七八日博文館）、『べらんめえ』

（大正二年七月十五日博文館）、ウヰリーム・マクドガール著『新し

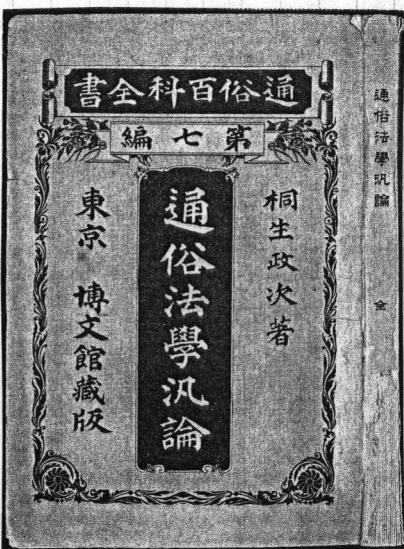
き世界秩序の體』（本名、譯、大正十五年一月三十日聚芳閣學術

部）、ベートヘンド・テッセル著『科學の未來と

文明破壊の脅威』（同、譯、大正十五年十一月三十日

七日聖山閣「未來叢書」）。附錄ゼビ・ヨア・ハル

デーン著「科學の未來と變と生殖の分離」）、『生物遺の地球』（昭



和一千七七年七月二十日文部省教科書局。再刊・平成元年十月十日中央公論社

「中央公論」等。

